

【交流・協議】

専門性の向上に向けた実践の交流

令和7年（2025年）1月10日（金）14:10～15:20

北海道立特別支援教育センター

研究員（知的障がい教育室）荒井 美 聡

本コースの目的

実習担当の教諭と連携し、作業学習及び実習方法等の工夫・改善に努めながら、**実習助手として資質能力の向上**を図るための**知識・技能等**を身に付ける。



交流・協議の目的

他校の特色ある取組を知り、日々の実践に生かす。

授業の充実に向けた方策を探り実践につなげる。

2

1 説明

2 交流・協議

3 全体交流

4 まとめ

3

Q 実習助手として高めたい力とはどのようなものですか？



4

(1) 交流・協議の進め方

【説明】 交流・協議の進め方について（7分）

【交流・協議】（50分）

- ・ 自校の実践と作業製品等の交流
- ・ 生徒との関わりで大切にしていること

【個人思考】 交流・協議の感想（5分）

【全体】 全体交流（5分）

【全体】 まとめ（3分）

5

(2) 協議の流れ（50分）

交流・協議 ≪50分≫ ＊4人グループの場合

- ① 自己紹介、役割（司会、タイムキーパー、発表者）を確認する。（4分）
- ② 事前提出資料を基にして各校の取組（5分）と、自身が考える「生徒との関わりで大切にしていること」（2分）を発表する。
- ③ 発表についての質疑応答をする。（4分）
＊②と③を4回繰り返す。

個人で振り返り ≪5分≫

- ④ 交流・協議を受け、感じたことなどを整理する。

6

○ 交流・協議シート

令和6年度（2024年度）実習助手コース「専門性の向上に向けた実践の交流」
交流・協議シート
交流・協議の柱：各校の実践と作業製品等の交流
生徒との関わりで大切にしていること

学校名・氏名	各校の実践	生徒との関わりで大切にしていること	気付いたこと 感じたこと

【個人思考】 交流・協議の感想

① 自己紹介・役割の確認

＜例＞

	1回目	2回目	3回目
A先生	司会	役割なし	発表者
B先生	タイムキーパー	司会	役割なし
C先生	発表者	タイムキーパー	司会
D先生	役割なし	発表者	タイムキーパー

※4回目まで順にローテーションをして行う。

② 発表内容をメモする

③ 発表を聞いて気付いたこと などをメモする

④ 交流・協議を通して感じた ことをメモする

7

2 交流・協議

8

交流・協議の進め方（時間配分）

14:17～14:21	①自己紹介、役割分担・進め方の確認	
14:21～14:28	②協議の柱に沿って発表	1人目
14:28～14:32	③質疑応答	
14:32～14:39	②協議の柱に沿って発表	2人目
14:39～14:43	③質疑応答	
14:43～14:50	②協議の柱に沿って発表	3人目
14:50～14:54	③質疑応答	
14:54～15:01	②協議の柱に沿って発表	4人目
15:01～15:05	③質疑応答	
15:05～15:10	個人思考（振り返り）	
15:10～15:15	全体交流	

* 時間の目安は、② 7分 ③ 4分

9

【遠隔】ブレイクアウトルーム機能の活用

- ・ Zoomのブレイクアウトルーム機能を活用して、3人～4人グループで協議を行います。
- ・ 15:05になると全体のミーティングに戻ります。グループ内で時間を確認しながら進めてください。
- ・ 協議の内容や進め方などで困ったときには、ヘルプ通知をしてください。当センター所員が入室します。



○ 個人思考（5分）

令和6年度（2024年度）実習助手コース「専門性の向上に向けた実践の交流」

交流・協議シート

交流・協議の柱：各校の実践と作業製品等の交流
生徒との関わりで大切にしていること

学校名・氏名	各校の実践	生徒との関わりで大切にしていること	気付いたこと 感じたこと

【個人思考】交流・協議の感想

交流・協議を通して感じたことを記入する。

11

3 全体交流

12

4 まとめ

13

まとめ

- 生徒の障がいの特性の理解に努め、担当教諭と連携しながら適切な支援を行うこと
- 担当教諭と連携しながら自校の特色を生かした取組を工夫すること

14